

題 名 沖縄自動車道の植栽管理について
《ギンネム駆除に向けた取り組み》

◎西日本高速道路(株)九州支社沖縄高速道路事務所

保全計画課 主任 ^{なかむら} ^{ひとし} 中村 均

○西日本高速道路総合サービス沖縄(株)

土木保全事務所 保全課長 ^{なかんだかり} ^{ひで} 仲村渠 秀雄

西日本高速道エンジニアリング九州(株)

緑化環境課 主任 ^{いそやま} ^{ともひで} 磯山 朋秀

1. 目的

近年、沖縄自動車道の一部区間で亜熱帯性の外来侵入木であるギンネムが繁殖し、標識等視認障害や路面張り出しによる建築限界障害が頻発し、対策が急務であった。

これまでのギンネムの駆除は、伐採などの刈り取りで対処してきたが、労務費、処分費など多大なコストがかかり、コスト削減を目的とした、薬剤による駆除方法を検討した。

2. 内容

これまで沖縄自動車道で使用実績のあった、2種類の除草剤を混合しギンネムが繁殖しているのり面に試験散布したところ、一定の効果が見られた。そこで、本線中央分離帯植栽帯に散布した結果、かなりの効果が見られた。

3. 結論

試験散布も含め、平成 21 年から本線路肩部、中央分離帯植栽帯に散布を行っているが、以前のようなギンネムの繁殖は見られず、標識等の視認障害、建築限界障害は無くなった。ギンネムなど一部のマメ科の植物を完全ではないが枯らすことができたうえ、イネ科の雑草及び樹木、花木は枯れることはなく、沖縄自動車道の景観を損なうことも無かった。

4. 今後の問題点

除草剤の使用に関しては、メリットとデメリットが表裏一体であり、ギンネムの駆除に関していえば一定の効果は見られたが、これまで沖縄自動車道で見られなかったイネ科植物が繁殖してきている。今後は除草剤の知見を高め、試験散布を行い、これからの継続的に沖縄自動車道の植栽管理を行っていききたい。